コミュニティ・スクールたより　令和７年９月発行

ＣＳたより

16 号

コミュニティ　・　スクール

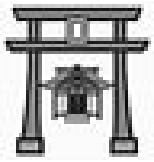
今年の７月、８月は、とても暑い日が続き、外に出るのがとても恐ろしくなる日々の連続でした。そんな中、９月に入り２学期が始まりました。学校では、様々な学習が展開されていきます。その中で子供たちも健やかに成長していきます。暑さは、まだまだ続きますが、子供たちばかりでなく、私達大人も体調に気を付け、１年の後半を頑張っていきたいものだと思います。

ふるさと科

６月　○　朝日中学校の３年生が、「未来の朝日町を考えよう」というテーマで、朝日町役場の住民・子ども課の廣田さん、商工観光課の小林さんに、自分たちが抱いた朝日町の疑問や問題点についてお話を聞きました。

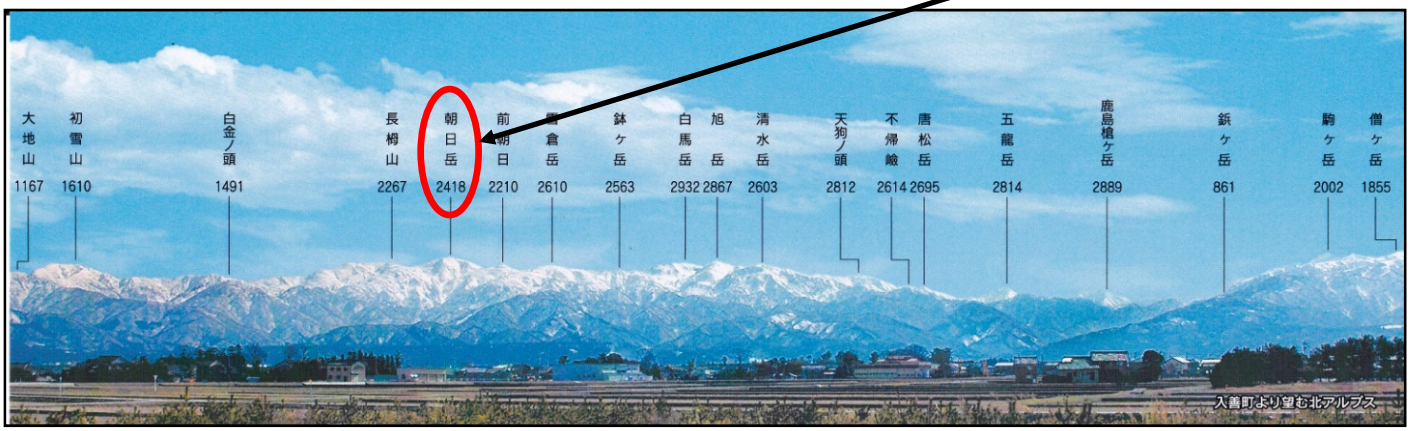
○　朝日中学校の１年生が、ふるさと朝日町を巡り、その景観から自分なりの課題を見つける学習を行いました。巡見場所は、舟川、ヒスイテラス、城山です。どんな課題を見つけ、どのように追究していくのか楽しみです。秋にはその学習発表が行われます。

○　さみさと小学校の４年生が、鹿嶋神社を訪問しました。九里文子宮司から鹿嶋神社の由来や昔あった神社の配置場所（地震で神社の配置場所が変わった。）、敷地内の大木の名前等を丁寧に教えていただきました。



○　朝日中学校の１年生が、蓬澤正二さんから朝日町の山々についてお話を聞きました。朝日町にある山の素晴らしさや、晴れた日には遠くにある富士山も見えることを聞き、驚きの連続でした。

標高２４１８ｍ
- 高山植物が４００種類もある。
  - オオサクラソウ
  - シラネアオイ
  - ミズバショウ　など
- ライチョウも生息



７月　○　さみさと小学校の３年生が、護国寺を見学しました。
子供たちは待ちに待った見学でうきうきでした。きれいに整備された美しい庭や小高い台地にある観音像、そのめぐりにあるたくさんの仏様の姿に魅了されました。また、そこから見ることができる境地区の家々や海岸の美しさも心に残りました。

美しいお寺だね。朝日町にこのようなお寺があることを初めて知ったよ。

令和７年度　第１回　朝日町学校運営協議会

委　員

保護者
- 朝日町ＰＴＡ連絡協議会会長　（兼任）　**善田　洋一郎**
- 朝日町立さみさと小学校 PTA 会長　**大西　覚**
- 朝日町立あさひ野小学校 PTA 会長　**善田　洋一郎**
- 朝日町立朝日中学校 PTA 会長　**才津　奈津子**

対象保育所・学校の所長・校長
- 朝日町立さみさと小学校校長　**大森　祐子**
- 朝日町立あさひ野小学校校長　**米田　歩**
- 朝日町立朝日中学校校長　**川田　彰**
- 朝日町保育所所長会会長　**宮島　文子**

関係行政機関の職員
- 朝日町教育委員会事務局長　**加藤　優志**

地域住民
- 朝日町公民館連絡協議会会長　**菅田　宣雄**
- 地域学校協働活動推進員　**深松　茂**

学識経験者
- 有識者　**南茂　敬子**

その他教育委員会が適当と認める者
- 朝日町教育センター指導主事　**四月朔日安輝子**

【第１回会議の内容】

〈研　修〉

○　**「保小中一貫教育」「コミュニティ・スクール」について**

保育所と小学校、小学校と中学校のそれぞれのジョイント期を大切にした切れ目のない学びの推進や、コミュニティ・スクールのねらいや活動内容について研修を行いました。

〈協　議〉

○　**地域学校協働活動本部計画**について

本年度の「地域学校協働活動本部計画」について、深松地域学校協働活動推進員から、４部（「ふるさと学習支援部会」「登下校安全支援部会」「放課後支援部会」「学校部活動支援部会」）の活動計画について説明があり協議し、承認されました。

「ふるさと学習支援部会」について

問　効果はどうか。

答　ふるさと科は、子供たちが探究的な学びを進めていくうえで効果的であり、欠かせないものとなっている。子供たちは朝日町のことを知ることができ、地域の方々に子供たちのことを知っていただけるとてもよい取組である。

「登下校安全支援部会」について

問　中学校のバス通学について、通常期（４月～９月）では、境地区と宮崎地区の生徒が対象だが、冬期（１０月～３月）は、どの地区が対象となるのか。

答　笹川・山崎・大家庄地区の一部が加わる。

「放課後支援部会」について

問　学習サポーターはどのような方々か。募集はどのようにしているのか。

答　教職員ＯＢ３名と大学生２名。大学生の中には、将来、教員を目指している学生もいる。募集については、町の広報誌に掲載したり、学習サポーターから声掛けしていただいたりしている。

「学校部活動支援部会」について

問　軟式野球部、情報・美術部等について今年度４月から新規募集を停止するという話であった。文化系の部活動は吹奏楽部のみになるが。

答　部活動は地域展開を図っていくが、そうできない部分もある。美術教室に行くなど、幅広く地域のいろんな人材と物的資源を利用しつつ、子供たちのニーズをそちらに広げていくことも、今後考えていかなければならない。選択肢が学校部活動だけではないという形に変わりつつある。ご理解いただきたい。「みんまなび」にもいろんな教室がある。

〈報　告〉

○運動会について

さみさと小　　今年度も半日開催としたい。運動会のねらいを、子供が競技や演技を通して日頃の教育活動で身に付けた力を発揮し、運動の楽しさや達成感を味わえるようにすること。子供の自主的自発的な意欲を高めて、仲間と協力する態度、思いやりの気持ちを育てることと考えている。これらを踏まえ、学校では子供たちにどんな競技をしたいか話合わせて、学校全体での代表委員会等を通して決めていくこととしている。

あさひ野小　　子供たちの心と体の安心・安全の確保、どの子も無理なく取り組めるもの、自分の学び、成長を実感できるものとしたい。練習についても天候（暑さ）を見ながら、負担をかけず、楽しく意欲的に取り組めるような計画を立てている。

朝日中　　小学校同様、生徒が主体となることをキーワードとし、短い期間で大会運営から進行、役員、応援すべて生徒中心に決め、携わり、実施していくことを目指している。例年より開始時間を少し早められないか検討している。

○朝日町改善プランについて

子供たちは学校だけで学ぶわけではなく、生涯にわたって学び続けていく。生涯にわたって意欲的に学び続ける子供を育てたいということが一番のねらいである。児童生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に学びを進めるため、具体的には一人一人の子供が自分に合う学び

方、自分に必要な学び方で、同じ到達目標でなくてもその子なりに伸びることが大事である。そして、たくさんの人たちと学ぶことも大事である。これらの視点から学習過程の改善、つまり、私たちの授業の改善を目指していく。

問　多種多様な授業の中で、子供たちに目が行き届く形になっているのか。
答　そのようにならなければいけないと思っている。タブレットの活用により子供たちの学習の歩みや躓きなどが見ることができる。ＩＣＴの活用により今までよりも目が行き届きやすくなった。

問　目まぐるしく変化していく中で先生方も必死にくらいついていこうという気持ちでやっていらっしゃると思う。先生方自身のモチベーションはどうか。特に、若い先生はどうか。
答　よく頑張っている。子供たちに向かって取組を始めてみると、実際にその効果が感じられてこの方向性でいいんだということが実感でき、意欲的に頑張ることができるのだと思う。
答　生みの苦しみはある。いいことばかりではない。失敗もあるが、いい教育を目指して取り組んでいるところであり、保護者や地域の方々に一つの進歩だと捉えていただけたらありがたい。

○１学期の学校運営について

さみさと小　　１・２年、３・４年、５・６年それぞれの学団の中に、主となる先生を置き、その人を中心に情報共有したり、振り返りをしたりして改善に努めている。

あさひ野小　　小規模校であることをメリットと捉え、子供たちの教育活動を展開していきたい時間割を工夫して３年生から教科担任制が可能なところは取り入れている。

朝日中　　健康と安全について大切に考えている。生活習慣の崩れから、学校に通いづらくなったり、学習がうまく進まなくなったりする子がいるため配慮が必要。安全については、行動範囲が広がるため交通安全のこともあるが、自然災害的な部分についても懸念されるところで、自分の身だけでなく他の命も守っていけるような中学生であってほしいと思い避難訓練等で学んでいるところである。

地域学校協働本部　　担当　山崎
電話 ： 090－7180－9179
FAX ： (0765)83－0279
Email ：asahi.chiikigakkoukyoudouhonbu@gmail.com